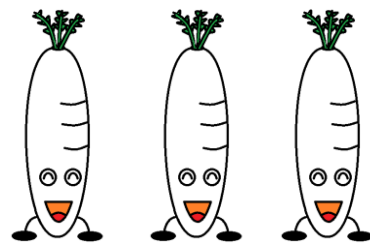


おうちで、レッツトライ！（レベル4）

「三浦のおいしい 野菜」



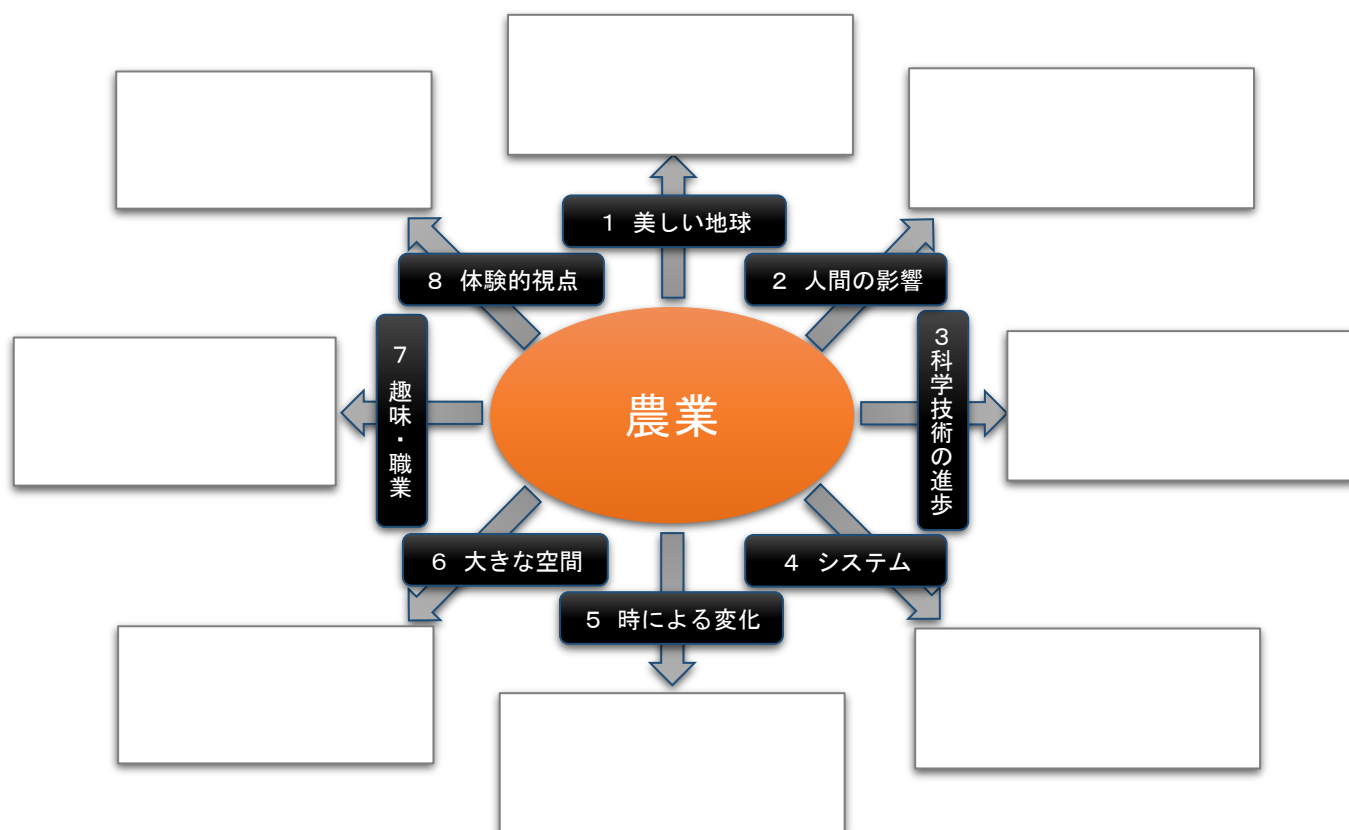
江戸時代には、すでに大根を栽培していた記録が残っています。かつては、三浦大根が作られていましたが、栽培のしやすさから青首大根が主流になっています。キャベツやスイカは、明治時代から栽培された記録があります。本格的に栽培されるようになったのは、昭和時代に入ってからです。潮風の影響を受けて、冬はあたたかく夏はすずしい三浦半島は、野菜の栽培に適していました。大根やキャベツ、スイカのほかに、カボチャ、メロン、トウガンなども栽培されています。

みうら学・海洋教育の一環として、ぜひ、三浦の農業について調べ学習に取り組んでみてください。

育んでほしい資質・能力

- ・ 郷土みうらに関する基礎的・基本的な知識・技能を活用し、思考・判断・表現しながら、持続可能な社会の実現に向けて、どのように社会・世界とかわかり、よりよい人生を送るかを考えて行動する。

農業に係る問題を見つける（アースシステムの視点から）



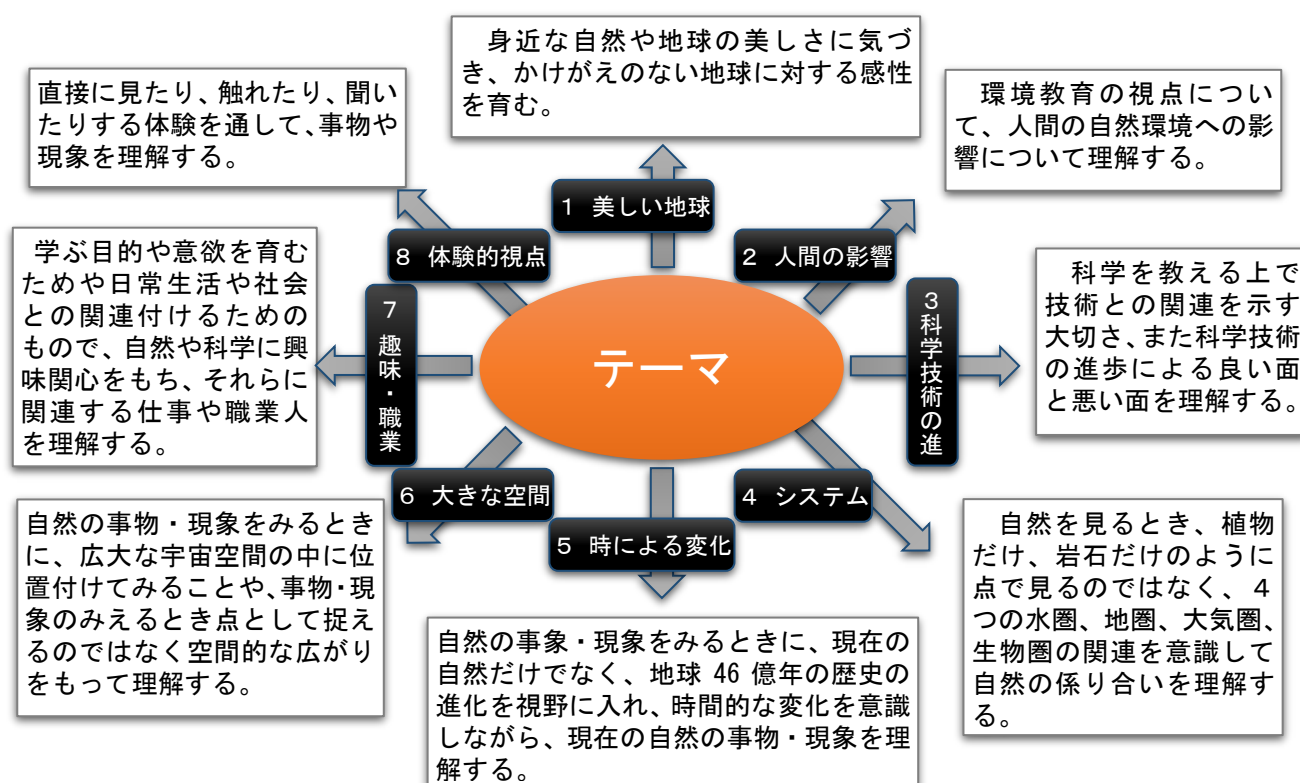
アースシステムの視点から、農業にかかわる問題を見出すとともに、問題解決に向けての計画を立て、調べた事柄を比較したり関係付けたりしながら、意見を形成しましょう。

また、持続可能な社会に向けた取り組みについて発信してみましょう。 → **ワークシート**

資質・能力（コンピテンシー）について どんな資質・能力を育みたいですか？

	郷土に親しむ	郷土を知る	郷土を守る	郷土を利用する
小学校低学年	・郷土に関する基礎的・基本的な知識・技能を着実に獲得しながら、身近な自然的事象や社会的事象に興味・関心をもつ。			
小学校中学年	1. 郷土に関する問題を発見し、観察、実験や調査活動を通して、海に関する基礎的・基本的な知識・技能を活用しながら解決を図る。 2. 自然的事象や社会的事象について、事実とその要因を関係付けて捉え、自分の考えをもつ。			
小学校高学年	1. 郷土に関して発見した問題を定義し、解決の方向性を探して計画を立て、結果を予測しながら実行するとともに、新たな問題を発見して学びをつなげていく。 2. 持続可能な社会の実現に向けて、自然的事象や社会的事象についての事実とその解釈についてお互いの多様な考え方を共有し、自分の考えを評価・改善しながら自分の意見を形成する。			
中学校	・郷土に関する基礎的・基本的な知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力等を生かしながら、持続可能な社会の実現に向けて、どのように社会・世界とかわかり、よりよい人生を送るかを考えて行動する。			

見方の視点（アースシステム）について ものの見方を広げてみましょう。



みうら学・海洋教育では、①資質・能力を育むこと ②見方の視点を身に付けること を目指します。

①資質・能力 ここでは、問題解決学習プロセスにおいて、「問いを見いだす」「解決の方法を計画する」「調べたり体験したりする」「調べたり体験したりしたことから考えをまとめる」などの能力を育みます。資質・能力は、年齢に応じて、低・中・高学年、中学校ごとに到達目標を設定しています。

②見方の視点 ここでは、アースシステムを活用します。アースシステムでは、地球をひとつのシステムとして見ることで、それぞれの事象・現象を相互作用的に捉えます。具体的には、学習材を多角的に捉えられるように8つの視点から見つめるとともに、それぞれの視点を通して他の学習材とのつながりを見出し、学びの可能性を広げていきます。

ワークシート

学校名

なまえ

ステップ①



調べた問題

ステップ②



調べ方

ステップ③



観察、実験の結果、調べたことの結果

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is a vertical margin line on the left side, creating a narrow left margin. The paper appears to be from a notebook or a standard ruled document.

ステップ④



問題に対する結論や自分の意見

[illegible]